

●産地市場の強み生かし、「地方市場」として屈指の取扱高

～ 松本市公設地方卸売市場

2月18日には、松本市公設地方卸売市場を視察しました。朝7時から場内を見学し、青果の競売、施設内の見学を行い、その後市場事務所内で、説明を受けました。

1、松本市公設地方卸売市場の概要

- 平成元年（1989年）10月開場。
- 流通圏は、中南信地域115万人（長野県第8次卸売市場整備計画）
- 敷地面積 120,152 m²、建物面積 48,739 m² 総事業費 10,455,4111千円
- 入場業者は 卸売5社（青果2社、水産・食肉2社、花き1社）、仲卸業者12社（青果8、水産3、花き1）、関連業者33社、買参人青果170、水産138、兼業145 花き158 合計611人 買出人413
- 管理事務所職員数は8人。（正規職員5人と嘱託職員3人）正規職員は、①市場長 ②市場係長 ③庶務担当 ④施設担当 ⑤業務担当 の5人で、嘱託職員は各担当の補助として各一人ずつ

2、松本市公設地方卸売市場における取り扱い状況

- 平成20年度実績は 青果192億円 水産202億円、食肉1億8千万円、花き8億5千万円 合計405億円
- 取扱いは減少傾向にあり、平成5年のピーク時に比べて 青果・水産とも約60%となっています。

3、松本市公設地方卸売市場のいくつかの特徴について

松本市場を視察先に選んだ理由は、全国の「地方市場」の中で屈指の取扱量となっており、盛岡中央卸売市場とほぼ同じとなっていることからどのような市場運営になっているのか調査したいということにありました。

- 卸売業者のパワーと信用力 松本市公設地方卸売市場入場の卸売会社は5社。そのうち青果卸売業者2社の平成20年度の売上総額は、362億円、572億円と「地方市場」の青果卸売業者のなかで全国2位、3位を占めている。松本市場での売り上げの約4.8倍となっている。それぞれの会社は、松本だけでなく、長野市の市場をはじめ、県内の他の地方市場等でも販売を行っています。

572 億円の長野県連合青果（株）は上田市に拠点を持ち松本をはじめ県内に支社を持っている会社であり、362 億円の長印は、長野に拠点を持つ長印と、長印松本合同会社が事業統合した会社とのことでした。

市場長は、『中央市場』『地方市場』の看板よりは、卸売のパワーと信用力こそ市場の基本ではないか」というお話しでした。

- 「産地市場」としての条件活かし、「川中」としての努力 松本市場の青果部の入荷先は、地元長野県が約 27%（取扱量）となっている。

一方、販売先では、量販店約 27% 仲卸売業者 21% 小売業者 18% 転送 33% などとなっている。転送は、県内外で、松本市場がエリアとなっている中南信の諏訪、飯田、駒ヶ根などの他の地方市場とも連携がなされているとのことでした。

量販店との連携では、地元資本で 40 店舗を展開するスーパーとの取引を行うなど営業努力がされているとのことでした。

- 生ゴミのリサイクル事業 場内から出る生ゴミをリサイクルする事業を平成 20 年から開始。卸売会社（長印）と業者の共同事業として、場内に処理施設得を建設。1 日 4 トンの処理能力をもち、乾燥させて豚の飼料にする施設です。実績は約能力の 50%程度とのことでした。

- 場内業者で各種協議会設置

市場の健全かつ円滑な運営と秩序の保持を図り、もって市場の発展に寄与することを目的に、市場に入場する全業者・組合並びに開設者の構成で、市場協議会を設置理事会のもと 5 つの専門委員会を組織し、活動の内容を決定しています。

専門部会は、①取引に関することを決定する「取引委員会」②市場まつりの開催に関する「総務委員会」③福利厚生事業の実施に関する「福利厚生委員会」④場内の清掃、ねずみ駆除、不法投棄処理等に関する「環境衛生委員会」④自衛消防組織の設置、防災訓練、交通安全等に関する「防災防犯交通安全委員会」の 5 つです。

- 市場会計の状況

平成 21 年度の市場会計予算では、一般会計からの基準内繰り入れを確保（177,640 千円）しながら、過去の基準外繰り入れの返済として、市場会計から 102,820 千円を返済（駆り出し）していました。盛岡市場との決定的な違いは、起債償還額が、盛岡市約 10 億円に対して、松本市場のそれは、2 億 8 戦万円となっていることです。